



88-7 戸上山古城

天正年間に古引(曳)長門守が在城した城である。米子城とゆかりが深い。この城下町が四日市村であった。

当時を偲ぶ絵図

戸上城跡は、米子市観音寺に所在する中世の城跡です。東宗像山塊の北側に派生する標高 63m の尾根筋に造られ、尾根上に郭状の平坦地が数段存在しています。城の記録は「陰徳太平記」や「伯耆誌」に少しだけ書かれており、城主に久代氏や古曳氏の名が見えます。

2013年に米子市の水道配水槽の建設に伴って、戸上城の南の尾根上にある観音寺狼谷山が発掘調査されました。遺跡からは数多くの郭状平場や掘立柱建物跡、柱穴、土坑などが発見されました。青磁や焼締陶器、土師皿、つぶて石（武器の一つ）などの遺物が検出され、14世紀から16世紀にかけての中世城跡であることが確認されました。戸上山城跡と尾根続きの位置関係から、戸上山城の南側の一角であると考えられます。法勝寺平野、箕蚊屋平野を望み、法勝寺川の水運（人や物の移動）を抑えることが出来る中世城館跡として注目されます。

(米子市埋蔵文化財センターだより 2017年3月号のコラムより)



観音寺狼谷山と戸上城跡

戸上山城からは大山の西の裾野から遠く日吉津の海岸まで見渡せ、日野川と法勝寺川の合流地点で交通の要の位置にある重要な城でした。上記にある戸上山城の絵図を見ると、まるで中国の桂林のような岩山の頂上に、へばりつくように館が描かれています。

「この砦は、天空の城じゃないか！」
これは、実際に登って快晴の空の下、全国一美味しい水道の取水地にやってきました。ここは、米川の源流になるところです。

